

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	唐津市立厳木小学校		
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの影響を受けて2年目となった今年度も、活動を制限せざるを得ない場面も多かった。しかし、昨年の方針と同様、「どう工夫して行か」を中心的に据え、様々な対策や工夫をしながら子どもたちにとっての「今年しかないこの一年」を乗り切るものにするために、みんなで知恵を出し合いながら進めてきた。このことは無駄なく効率的に最大限の教育効果を目指す新たなスタイルとして確立させることができ、その成果は大きいものとなった。</li> <li>・学校を教職員主導で動かすのではなく、教職員は黒子となり、いかに児童自ら動かしているように意識をもたせることで、学校に活気あふれ、児童の自信に繋がっている。本校はその体制ができおり、年度末に近づくと、特に5年生が「次は自分たちが学校を動かす番だ」という意識を強くもつ。この活動は今年度も確実に実践でき、伝統となって受け継がれている。</li> <li>・校内研については、新学習指導要領が施行されて2年目の外国語教育に取り組んできた。今年度は評価を生かした学びと言語活動を通して行う授業づくりについて研究を進めた。また、それに付け加えて地域の特色や児童の実態を生かした単元づくりをめざし、教材開発を行った。来年度も引き続き外国語教育の更なる充実を目指し、今年度新たに生まれた課題解決に向けて取り組んでいきたい。</li> <li>・「学校大好き」「家庭大好き」「地域大好き」の児童を目指し、教育活動を行ってきた。来年度も地域と共にある学校、地域の期待に応えられる学校となるよう努めていきたい。</li> </ul>		
2 学校教育目標	豊かな心を培い、夢に向かって、主体的・創造的に活動する子どもの育成 ～ふるさとを愛し、人に優しく、一人一人が伸びる学校 厳木小学校～		
3 本年度の重点目標	1 児童の意欲を高め、思考力、表現力、判断力を育む指導の工夫	2 きめ細やかな指導と児童の学習習慣の確立	
	3 心の教育(一人一人を大切にすること)の深化と充実	4 地域人材の活用と地域での体験活動の推進	
	5 校内研究・職員研修の充実及び勤務時間を意識した働き方改革の推進		

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1) 共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・月末にチェックシートを記入し、指導法を振り返るとともに、項目毎に平均点を提示し、平均点が3.5以下の項目は、重点項目として共通理解する。	A	・子ども達が「協働的な学び」を行っているかについて、意識して取り組んでいる職員は、100%であった。指導法の振り返りでは、平均3.5となり、目標を達成することができた。今後とも、指導法についての現状と課題を意識しながら、学力向上に向けて取り組むを続けていきたい。	A	・先生方が共通理解して、同じ方向を向いて学習指導に取り組まれているので、児童の学習理解ができている。児童の佐賀県小・中学校学習状況調査結果や職員アンケート結果から、十分達成しているといえる。
	○GIGAスクール構想の中で展開させる、主体的に自分の考えを形成し、表現する力を育むための授業の工夫と家庭学習習慣の確立	○話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりできている児童80%以上 ○児童アンケートで「家庭での学習時間(10分×学年+20分)を集中して取り組めた」と答える児童の割合80%以上	○話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりできていると答える児童80%以上 ○児童アンケートで「家庭での学習時間(10分×学年+20分)を集中して取り組めた」と答える児童の割合80%以上	・「授業づくりのステップ1・2・3」を踏まえ、全教科半分以上の時間で、話し合う活動と振り返り活動を行う。	A	・「授業づくりのステップ1・2・3」を踏まえ、話し合いや振り返り活動を行っている職員は、100%であった。また、話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりできている児童は90%であった。・家庭での学習時間を達成している児童は73%であった。宿題だけでなく、進んで自主学習に取り組めるよう、お褒り等で呼びかけていきたい。	A
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳や人権教室に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童90%以上	・1月1回のおひさま朝会の実施 ・人権擁護委員会による人権教室の実施 ・地域の方と連携した体験活動の実施 ・人権・同和教育に関する校内研修等の実施	A	・道徳や人権教室に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童94%であった。 ・引き継ぎ、月1回おひさま朝会を実施した。 ・いじめ問題への対応に係る校内研修を実施した。 ・人権・同和教育に関する校内研修を実施した。	A	・道徳や人権教育、平和教育等の取り組みが充実している。子どもたちの主体性を重視した心が育つ指導がなされていると思う。児童のアンケート結果からも、目標は十分達成できていると思う。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの未然防止・早期発見に努め、いじめについて組織的対応ができていると回答した教職員85%以上。	・QUアンケートを実施し、その結果を生かした指導を行う。 ・学期に1回の生活アンケートの実施と活用。 ・定期的に「友達アンケート」を実施し、委員後の丁寧な聞き取りと指導を行い、結果を全職員で共通理解する。支援が必要な児童については全職員で対応する。	A	・QUアンケート、生活アンケート、友達アンケートの実施・分析ができた。その結果を活かした指導を行っているとした職員が100%だった。 ・児童への聞き取りなどの早期対応により深刻ないじめ事案に発展することはなかったことが成果として挙げられる。 ・児童への丁寧な聞き取りと職員間の共有を継続していきたい。	A	・いじめ問題については、特に重大な問題は発生しておらず、小さい問題も早期に対応されている。これからは、家庭と学校との連携により問題を共有して、子どもたちの成長を願いたい。 ・他者への思いやりや社会性、倫理観、正義感の醸成のために様々な取り組みが行われており、今年度、深刻ないじめの認知・認知がなかったことで、目標は十分達成できていると思う。
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒60%以上	・「運動の行事や縦割り班活動を通して、運動が大好きな子ども」を育てる。 ・新型コロナウイルス感染に考慮した運動能力向上につながる動きや遊びを授業の中で児童に紹介し、休み時間にも取り組めるような環境を提供する。	A	・児童アンケート「授業以外で、運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上」と答えた児童は62.3%と目標を達成することができた。朝から外で遊ぶ児童や、異学年で仲良く交流する児童が多く見られるようになった。今後も外遊びを推奨していきたい。 ・のびのび遊びや校内持久走記録会、縄跳び大会などの体育的行事をコロナ感染予防対策を十分に講じた上で実施することができた。それにより、学校での運動量を確保することができた。	A	・新型コロナウイルスの影響で、体育的行事等の在り方、活動内容が制限される中、内容の見直し検討により、体育大会・マラソン大会・縄跳び大会等が実施されたことで、目標は十分達成できていると思う。
	○望ましい生活習慣の形成	○家庭で約束したスマートフォン・ゲーム時間の遵守と「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身に付いた児童80%以上 ○「感染対策を意識した生活ができた」と回答をした児童90%以上。	・授業において睡眠とスマートフォン・ゲーム時間を守ることを大切に伝える。 ・生活アンケートを定期的に実施し、規則正しい生活習慣や感染予防の意識を高める。 ・家庭に対して、週末の生活について呼びかける。	B	・児童アンケートにより「将来の夢や目標をもっている」に肯定的な回答をした児童77%であった。今後、学校活動と学校行事を関連させながら、目標をもって取り組み、事後の振り返りも確実にすることで、児童の意欲への充実感が生まれるよう取り組んでいきたい。また、次年度キャリア教育を生かしながら実行委員会形式の学校行事に取り組んでいきたい。	A	・積極的に地域人材を活用し、地域での体験活動などを行うことで、夢や目標をもつ手助けとなればよい。 ・実行委員会形式による学校行事や児童会行事、児童委員会による授業づくりが行われ、児童の主体性を育む活動に積極的に取り組んでおられる。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週金曜日を定時退勤日とする。 ・時間外勤務時間調査等をごまかすに行いながら、勤務の適正化によりよい教育効果に繋がることが伝え、タイムマネジメントの習慣化を図る。	A	・3学期は、金曜日の定時退勤を意識して業務を進める声や掛けが見られるようになった。また、1ヶ月の超過勤務時間は45時間を超えることがなく、勤務時間の適正化を進めることができた。 ・チームマネジメントの習慣化を意識するようになり、業務内容に工夫を凝らすながら、スリム化を図ることができた。	A	・学校評価計画の進捗状況や見直し、職員のアンケート結果等から、目標は十分達成できていると思う。大事なことを落とさずに、効率よく教育活動に取り組んでおられることと思う。
	○職員の心身の健康	○本校独自に設定したストレスサイン10項目のうち、該当するものが2項目以下の職員80%以上	・定期的なチェックを行う。 ・心身の不調を防ぐために、コミュニケーションを大切にし、ケアの充実を図る。	A	・本校独自に設定したストレスサイン10項目のうち、該当するものが2項目以下の職員は、83%で目標数値は達成した。なんらかのストレスを感じる職員もおり、管理職を中心に積極的にコミュニケーションを図りながら、職員の心身の健康を守ることができるよう掛ける。	A	・ストレスチェックアンケートの結果から、一部の項目でストレスを感じておられる職員もおられるが、ごく少数の人数・項目であるので、目標は十分達成されている。職場環境や気持ちの問題が大きいと思うので、チームという考え方でやっていくことが大切と思う。
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○地域人材の活用と、地域での体験活動の推進	○積極的に地域人材の活用をし、地域での体験活動の推進する中で育む、ふるさとを愛する心と主体的・創造的に活動できる力	○地域の方々から見た児童の活動に関して肯定的な回答90%以上	・コロナ感染防止対策を徹底した上で、地域からのゲストリーダーやチームを必要に応じて積極的に招き、体験活動を通して学びを充実させる。 ・地域の方々へ学習の成果を発表する機会を設け、学んだことについての考えや思いを伝える。	A	・コロナ感染防止対策を徹底した上で、皆で楽しみながら「ゲストリーダー」を招いての活動を行うことができた。4年生は総合的な学習で福祉を柱とした活動、5・6年生は地域ボランティアに関する講座を実施した。その他にも、3年生は「ふるさとの自然や文化を学びたい」という思いから、ふるさとをテーマにした各級各段の学習活動が実施された。また、地域の方々から見た児童の活動に関するアンケートの結果も、90%以上肯定的な回答が得られた。今後も、地域の方々との連携を深め、学びの機会を創出していきたい。	A	・新型コロナ禍により各種活動の実施が制限される中で、地域の方や組織との多様な交流により、地域の自然や文化を学びたいという思いから、ふるさとをテーマにした各級各段の学習活動が実施された。また、地域の方々から見た児童の活動に関するアンケートの結果も、90%以上肯定的な回答が得られた。今後も、地域の方々との連携を深め、学びの機会を創出していきたい。
○校内研究・職員研修の充実	○研究テーマに沿った研究の充実及び教員の専門性の向上	○外国語教育の進め方に関する専門性が向上した教員90%以上	・外国語教育に関する職員研修を積極的に講師を招聘して行う。 ・研修を生かした学びの充実を柱とした研究の推進を学年部での授業研修などを通して行う。	A	・中間評価「引き続き今年度に向けた調査では、「研修を生かした学びの充実を柱とした研究の推進を学年部での授業研修などを通して行っている」とした職員が「やや当てはまる」も含めて100%で、目標数値を達成した。 ・今年度も計画的に研究授業を実施し、評価及び言語活動の充実について研鑽しあうことができた。2月の講師招聘の研修でも、外国語教育への理解と態度向上を図ることができた。	A	・教職員のアンケート結果から、「やや当てはまる」も含めれば、100%の教職員が達成している回答されており、外国語教育の専門性の向上について、目標が十分達成されている。
○特別支援教育の充実	○支援体制の確立と教員の専門性や意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員80パーセント以上(アンケートで)	・特別支援に関する研修会の実施(夏休み) ・ケース会議の開催、毎月1回の生徒指導協議会での気になる子についての共通理解 ・外部機関との連携(SC、SSW) ・特別支援教員の情報や資料の提供	A	・特別支援に関する研修会を実施し、「配慮を要する児童の支援の仕方の向上」に努めている教員が100%であった。 ・SCやSSWの活用により、保護者との連携を密にしながら児童支援に努めた。また、SCやSSWの専門的立場から保護者や気になる子を抱えている困難な状況を踏まえたアドバイスをしてもらい、職員はそれを理解した上でより良い児童の支援を行うことができた。	A	・教職員のアンケート結果から、「やや当てはまる」も含めれば、100%の教職員が専門性や意識が向上したと回答されており、学校全体でより取り組んでいられると思う。今後も、更なる研修や工夫を続けてほしい。
●●● 県共通 ○●● 学校独自 ○●● 志を高める教育							
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの影響を受けて3年目となった今年度も、活動を制限せざるを得ない場面があった。しかし、昨年の方針と同様、「どう工夫して行か」を中心的に据え、様々な対策や工夫をしながら子どもたちにとっての「今年しかないこの一年」を乗り切るものにするために、みんなで知恵を出し合いながら進めてきた。このことは無駄なく効率的に最大限の教育効果を目指す新たなスタイルとして確立させることができ、その成果は大きいものとなった。</li> <li>・学校を教職員主導で動かすのではなく、教職員は黒子となり、いかに児童自ら動かしているように意識をもたせることで、学校に活気あふれ、児童の自信に繋がっている。本校はその体制ができおり、6年生がリーダーとなって学校を引っ張っている。年度末に近づくと、特に5年生が「次は自分たちが学校を動かす番だ」という意識を強くもつ。この活動は今年度も確実に実践でき、伝統となって受け継がれている。</li> <li>・校内研については、新学習指導要領が施行されて3年目となった。今年度は「自ら考え伝え合う言語活動の在り方」「学びを生かす評価の在り方」「地域や身の回りのことなど身近な素材を生かした教材開発」について研究を進めた。来年度は、これまでの研究を生かして引き続き外国語教育の更なる充実を目指し、取り組んでいきたい。</li> <li>・「学校大好き」「家庭大好き」「地域大好き」の児童を目指し、教育活動を行ってきた。来年度も地域と共にある学校、地域の期待に応えられる学校となるよう努めていきたい。</li> </ul>						